

「第4回小松天満宮整備計画評価委員会」の審議結果（議事要旨）について

去る、平成22年3月10日（水）に、小松市内で『第4回小松天満宮整備計画評価委員会』が開催されました。また、会議では事務局より（1）第3回委員会からの確認事項について、（2）景観検討について、（3）地盤改良による環境影響について、（4）輪中堤の雨水排水計画（案）について説明があった後、各委員による審議が行われました。また、今回で議事全てをご審議いただいたため、最後に委員会のとりまとめを行いました。主な意見は次のとおりです。

出席委員：全5名中5名出席 ※印は委員長

氏名	専門分野	所属
※町村 尚	微気象学	大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 准教授
松枝 章	植物学	愛樹技術士研究所 所長
関戸 信次	地下水	小松市文化財調査委員会委員長
中森 勉	建築学・文化財	金沢工業大学環境・建築学部建築系建築学科 准教授
鈴木 洋之	河川工学	石川工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授

○議事内容

- （1）第3回委員会からの確認事項について
- （2）景観検討について
- （3）地盤改良による環境影響について
- （4）輪中堤の雨水排水計画（案）について
- （5）委員会まとめ

○議事要旨（主な意見） [各委員からの意見について]

- （1）第3回委員会からの確認事項について
特になし
- （2）景観検討について
 - ①WEB アンケートにより寄せて頂いたデータには、小松天満宮に興味がある方だけの回答を頂いているわけではないようなので、中立的な考えに対し前後した意見も反映された公平性のあるデータと判断される。
 - ②参考までにデータ取得した内容のうち、年齢や男女別といったクロス集計結果も示して欲しい。 →（事務局：別途送付する）
 - ③輪中堤のデザイン第2案に対する質疑（オブザーバー参加者の質疑について委員会承認後）で、草刈り等の維持管理をしなければならない理由を求められる。・・・事務局より、放置した場合、木本類に移行し洪水流の阻害になるため除草等の維持管理が必要であるとする事務局の説明に対し委員会は必要性を認定した。

- ④委員会としては、アンケート手法、範囲、住民への説明方法等について特段問題はないと判断される。アンケート結果を尊重して、施設管理予定者の理解を得ながら整備すること。
- (3) 地盤改良による環境影響について
- ①セメント系の地盤改良（CDM工法）の周辺土壌水質への影響については、ほとんど影響がないと思慮されるが、調査時期が植物の休眠時期であり引き続き経過を見守ることが必要である。 →（事務局：地下水等の経過を引き続き把握する）
- ②輪中堤建設により境内の地下水については、従前より下がりにくくなることから、植物への影響も懸念される。 →（事務局：現状の排水機能を確保するよう配慮する）
- (4) 輪中堤の雨水排水計画（案）について
- ①排水規模決定である1／10確率雨量と許容湛水深の考え方については、理解できるものの平成18年7月出水では湛水しなかった事実から、排水能力として最低限の規模と理解する。
- ②排水経路の維持となると、輪中堤建設前において浸水しやすい箇所が、建設後さらに浸水しやすくなるので、排水機能の維持を考慮した計画にすること。
- (5) 委員会まとめ
- ①微気象環境について
輪中堤建設に伴う微気象変化の代償措置（植栽による緩和）の効果をモニタリング等で検証すること
- ②地盤改良により環境影響について
施工中の植物への影響対策を実施するとともに、水質等の変化を把握しながら事業を進めること。
- ③社叢林への影響について
移植可能な樹木については、専門家の指導を得ながら事業を進めること
- ④景観について
アンケート結果を尊重して、事業をすること
- ⑤施設計画（輪中堤内）について
輪中堤内の道線については2箇所とし、排水規模については1／10確率降雨に対応する排水設備の能力を最低限、確保すること。
- ⑥その他
本委員会で審議した内容の実行状況や状況の変化について、委員に情報提供し、必要に応じて委員に諮問すること。
以上のまとめをもって、本委員会を最終委員会とする

以上